

討議テーマ「様変わりする外部環境における機電技術者の果たす役割」

第5班 相馬 友樹 大成ロテック(株)
金井 孝行 東急建設(株)
川崎 亮 (株)NIPPPOコーポレーション
宮澤 徹 前田建設工業(株) (名簿順)

今回の機電技術者意見交換会を進めていくにあたって、第一に問題になったのが 現状でゼネコン業界と舗装業界との機電社員の果たしている役割に多少の相違点があったことである。その中で、両業種とも「レンタル化」が今の環境下で重要なファクターを占めていることが分かった。

まず、両業種の相違点を少しまとめてみる。大きく違う点は、ゼネコン各社では、高価な機械を使用することが多くかつコスト削減の面からも自社機の保有はほとんどなく、90%近くがリース会社からのレンタルだということである。また、施工は全て協力会社が行うということである。機電社員の役割としては、現場環境に適した機械の選定・調達、機械の維持管理、機械部門の積算・原価管理が主である。それとは逆に、舗装各社では、特殊施工機械はまだまだ自社機械を保有し、使用している。施工に関しても、オペレーターは自社の機械系社員が行っている。しかしながら、舗装業界でも一般汎用機械レベルでのレンタル化は輸送費、維持費の面でもコスト削減に大きく関わってくるので、推進の方向にあるといえる。

問題点としては、レンタル化が促進されていることから機電社員の機械・電気に対する知識の低下、機械故障時・緊急時の対処の遅れが懸念されている。また、腕のいいレンタル会社の技術作業員の台頭により、機電社員自体の必要性が薄れる危険性がある。これに関しては両業種にも言えることである。

今後の機電技術者の果たす役割としては、レンタル化が進んでいることは紛れもない事実であることなので、レンタル会社単独では出来ないような技術開発をしていくことが上げられる。その中で建設業（自社）、建設機械メーカー、レンタル会社が協賛しあって一つの建設機械を開発するようなプロジェクトチームを作り、そのリーダーとなっていくことも必要なのではないかと考える。また、現在の建設業界全体を見ても、製造業界（機械メーカー）に比べて遅れをとっているのは確かだと思う。これからの建設業界の発展のためにも個々の能力を向上させ、会社に貢献していくことは必要不可欠なことである。